



平成 26 年 10 月 17 日
海 上 保 安 庁

西之島の火山活動の状況（10月16日観測）

10月16日、羽田航空基地所属航空機（MA725 みずなぎ）により、西之島の火山活動の観測を実施した。

1. 噴火の状況

前回確認された火砕丘にある火口から、溶岩片の噴出を伴う褐色噴煙を1分間に5～6回の頻度で噴出していた。溶岩流が火砕丘から北方向に流出し、北側に新たな陸地が大きく形成されていた。

西之島の火山活動は引き続き活発で、今後も噴火による影響が及ぶおそれがあることから、西之島及び周辺海域（島の中心から半径6kmの範囲）においては、付近航行船舶へ引き続き航行警報により警戒を呼びかけている。

2. 新たに形成された陸地の状況

前回と比較して、北方向に拡大していた。また、西岸から南岸、東岸にかけて波浪による浸食と思われる海岸線の後退箇所が認められた（図6参照）。

なお、同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上健治教授からは、「噴火は、1分間に5～6回発生しており、火砕丘からの溶岩の流出は活発な状態で継続していることから、マグマの供給が火口に集中しているものと推察される。前回(9月17日)の観測と比べてもその勢いが減退する徴候は見られない。」

火口の北方向に流出した大量の溶岩によって溶岩原が形成されつつある。この状態が暫く続けば、北側の浅海を埋め立て、溶岩原が急速に拡大する可能性が高い。」

とのコメントが得られた。

(注) 溶岩原：溶岩によるある程度の広がりをもつ平原のこと

※10月16日時点での形状（暫定値）

・東西：約 1,550 m （9月17日時点 東西：約 1,550 m）

・南北：約 1,700 m （9月17日時点 南北：約 1,450 m）

・面積：約 1.85 平方 km、東京ドームの約 40 倍

（9月17日時点 約 1.49 平方 km、東京ドームの約 32 倍）

（参考）西之島全体の面積：約 1.89 平方 km



図1 火砕丘及び火口の位置（10月16日撮影）



図2 北西方向から見た西之島（10月16日撮影）



図3 火砕丘の火口から噴煙を噴出（10月16日撮影）



図4 火砕丘の火口から溶岩片を噴出（10月16日撮影）
（熱赤外線画像：白色ほど高温であることを示す。）

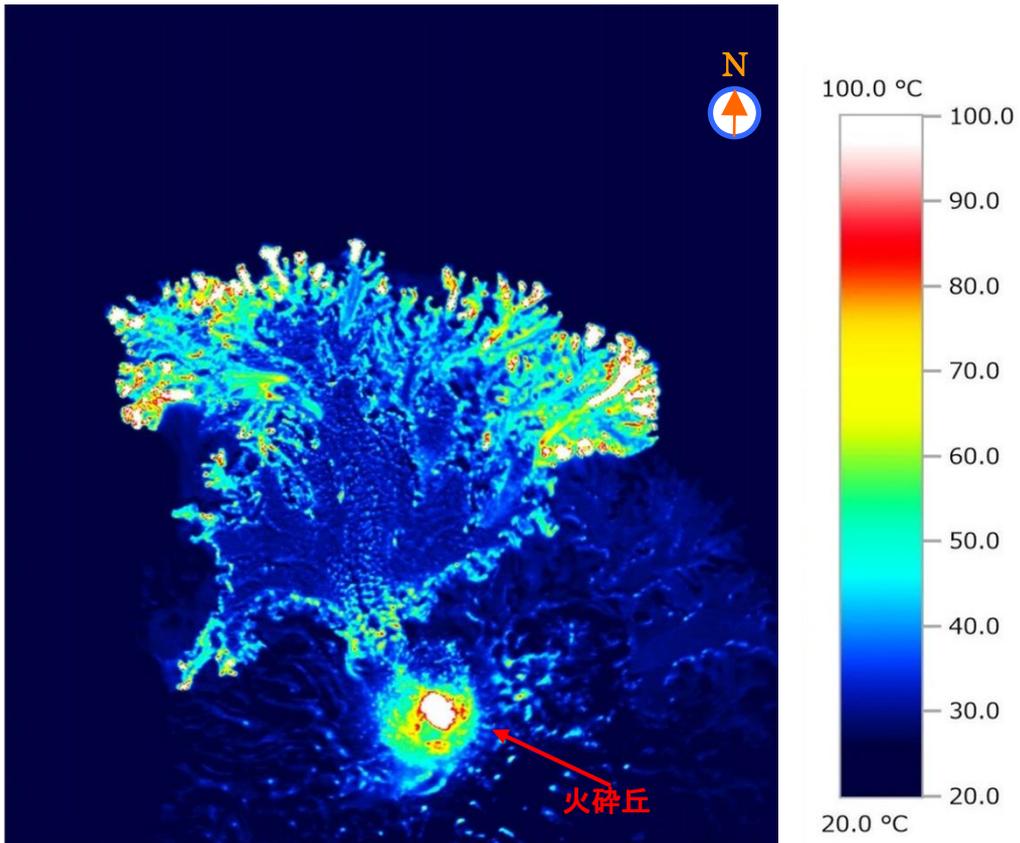


図5 熱画像の解析結果（10月16日撮影）
 溶岩流が火砕丘から北方向に扇状に流れているのが確認できる。

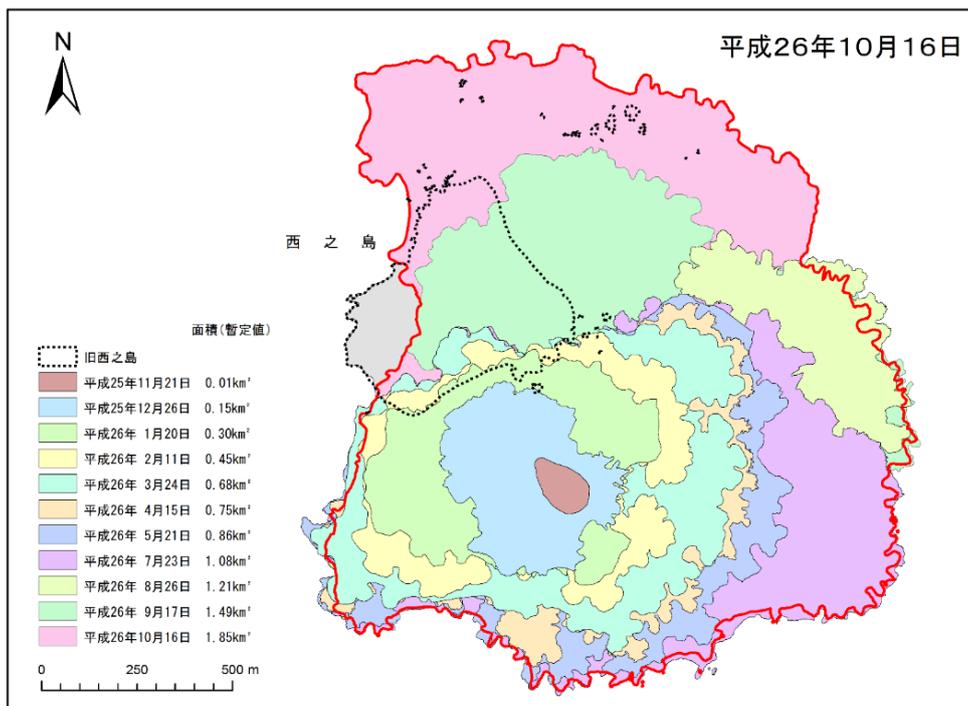


図6 新たに形成された陸地部分の形状変化の様子
 赤線は10月16日現在の陸地の外縁（旧西之島を除く）